

おしか おながわ  
宮城県牡鹿郡女川町・東松島市

## 復興まちづくり事業が着工



着工式での鉄入れ(女川町)



着手式での鉄入れ(東松島市)



住宅の集団移転計画に基づく模型(東松島市)

UR都市機構は、2011年3月に発生した東日本大震災の被災した市町村において復興まちづくり支援を進めています。

宮城県牡鹿郡女川町および同県東松島市では、復興事業の建設工事が始まりました。それに先立ち女川町では、9月29日に「女川町復興まちづくり事業着工式」を、東松島市では10月25日に「東松島市復興まちづくり整備事業着手式」を開催。いずれも100人以上の関係者が参加しました。

女川町、東松島市では地震により津波が襲いました。女川町では、建物の7割が全壊または半壊などの被害。死亡者・行方不明者は約830人。東松島市では市街地の約65%が浸水し、死亡者・

行方不明者は1000人を超える大災害となりました。

当機構は被災した18の各市町村と協定などを結び、女川町では町中心部および離半島部において、土地区画整理や住宅の集団移転の促進、災害公営住宅の建設、漁港施設機能の強化などを実施します。東松島市では、約91ヘクタールの野蒜北部丘陵地区や約22ヘクタールの東矢本駅北地区の土地区画整理などを全面的に支援し、JR仙石線の日も早い復興を目指します。

須田善明女川町長は着工式の挨拶で、「いよいよ復興まちづくり事業の着工です。1000年に一度の災害というなら、私たちは1000年に一度のまちづくりを成し遂げ、将来に引き継げるまちをつくって

いきます」と表明しました。

また、阿部秀保東松島市長は着手式の挨拶で「後世の東松島市に問われる事業ばかりですが、一つひとつ着実に乗り越え、一人ひとりが新たな生活の拠点として再び笑顔で暮らせるようになるまで引き続き努力していきたい」と表明しました。

UR都市機構は、これまで培った経験とノウハウを最大限に発揮し、また新しくCM(コンストラクションマネジメント)方式を活用した工事発注を行うなど地元の建設業者などを含めた民間の力をお借りして、住民の方々が一日も早く元の暮らしを取り戻せるよう、組織を挙げて復興事業に取り組んでまいります。

<http://www.ur-net.go.jp/saigai/>

### 「UR PRESS」Web版もお楽しみください!



内容充実の「UR PRESS」Webサイト。特集の巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひサイトもご覧ください。

UR PRESS

検索

<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>

### URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

[http://twitter.com/UR\\_TOSHIKIKOU](http://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU)

### 編集後記

「若い人が一緒に居てくれるだけでいい」。今回取材した武里団地(埼玉・春日部市)で、学生さんとの食を通じた交流について、こうお話しくださった、団地にお住まいの関口京子さん。誰かのために料理する気持ちや、同じものを食べて同じ時間を過ごすことの尊さを教えていただきました。

本号のテーマは「食」です。記事ではUR都市機構が作ってきたキッチンの変遷についてもご紹介しています。撮影を行った集合住宅歴史館(東京・八王子市)では、昭和30年代の「公団住宅」のほか、日本で初めて建設された本格的なRC(鉄筋コンクリート)造の集合住宅などが展示されています。一歩足を踏み入ると、子どもの頃祖父の家に行った時のような気持ちになり、台所に行けば誰かと話げできたことを懐かしく思い出しました。

私たちが提供する住空間で、皆さまがご家族や地域の方々とながりを深めていただければ幸いです。